

令和元年度 第1回大東市産業振興市民会議（報告）

1. 日時・場所 令和元年6月4日（火）午後3時30分～5時30分
大東市役所 東別館2階会議室

2. 出欠

【出席】

会長	（株）山田製作所 代表取締役	山田 茂
副会長	NPO法人住まいみまもりたい 理事長	吉村 悦子
委員	大阪産業大学 教育研究推進センター長・デザイン工学部教授	濱崎 竜英
	大阪市立大学 社会科学系研究院経営学研究科 教授	本多 哲夫
	新大阪食品産業（株） 代表取締役	北尻 正太
	小金屋食品（株） 代表取締役	吉田 恵美子
	アッセンブル産業（株） 代表取締役	竹原 清司
	大東市商業連合会 会長	角谷 昌寛
	大東商工会議所 常議員・（株）ウチダ 代表取締役	内田 祥嗣
	近畿経済産業局 総務企画部中小企業政策調査課長	足立 光晴

オブザーバー	大東ビジネス創造センター D-Biz センター長	加藤 敏
市	政策推進部長 北本 賢一	
事務局	産業振興課 田川総括次長・坂本課長補佐・林	

【欠席】

委員	明星シンセティック（株） 代表取締役	上田 隆章
	NPO法人大東夢づくりコミュニティ 代表理事	中村 朋子

3. 委嘱状交付

市長より委嘱状を交付。欠席委員には後日送付。

4. 市長あいさつ

本年4月1日から「働き方改革関連法」が順次施行されており、働く方々がそれぞれの事情に応じた多様な働き方を選択できる社会を実現する取り組みは急務と言える。本市の産業振興に向け、様々な角度から検討を行っていただけるよう、委員各位に協力をお願いする。

5. 委員自己紹介

4名の新任委員を含めた新体制となったため、自己紹介とあいさつを各委員から行った。

6. 政策推進部長あいさつ

機構改革により政策推進部は施策を実行する部となった。会議でいただいたご意見等を施策に結びつけられると考えている。積極的な意見交換をお願いしたい。

7. 事務局紹介

3名体制で事務局を行う。

8. 議案

(1) 会長、副会長専任

山田委員が会長として推薦され全員承認。会長が吉村委員を副会長に指名。

(2) 大東市産業振興市民会議概要説明

事務局より資料を基に次の事項を説明。

- ・平成20年に設置され、大東市地域産業振興条例の制定に向け検討を行い、条文を一から議論して平成23年に条例を制定した。条例制定後は、条例に基づき施策検討を行ってきた。
- ・平成24年に附属機関に昇格した。
- ・各年度に基本方針等と具体的施策等を市長へ提言を行っている。

委員からの意見。

- ・大東市が条例を制定した当時は、条例の制定まで必要なのかと懐疑的な自治体もあったが、現在は産業振興の基本方針を示すものとして条例は必要だと考え、その後制定した自治体が増えている。条文を一から手作りした大東市の影響も大きかったのではないかと思う。

(3) 今年度の主な事業及び施策検討

委員からの意見。

- ・人口の流出が問題となっている。1996年頃から男性が減ってきているのは企業が地方や海外に移転し働く場所が減ってきているからではないか。
- ・子育て世代は教育面で済む場所を決めることが多い。教育に力を入れており、落ち着いた住環境のイメージがある北摂に住みたいという声は強い。小学校入学を機に流出する例が多いのではないか。
- ・学力も大事だが、子供たちが社会で働くうえで必要なことを教えることも大事である。市民会議の提言から生まれた中学生のキャリア教育学習では、経営者の話を通して働くことの楽しさなどを伝えている。
- ・大東市全体では人口は減っているが、諸福地域ではマンションが建ったこともあり児童数は増えている。住環境を整えば人口は増えるのではないか。
- ・大東の知名度が低いのも流出の原因ではないか。

- ・大東市の知名度が低いことを、逆にバネにしてブランディングや発信を頑張っている人もいる。
- ・ブランディングと言えば、ズンチャッチャ夜市は出展するお店を厳選することで成功している。
- ・大東は、市・商工会議所・各種団体すべてが協力して盛り上げようとしている。縦割りではなく、連携して横に繋がれば相乗効果が期待できる。
- ・1人・1つずつではなく集まってアピールすることが重要。
- ・どの企業にも必ず強みはある。企業のストーリーを引き出してPRすればメッセージ性が出るのではないか。
- ・オープンファクトリーは自社のファンづくりに役立つ。また、社員の人材育成にもつながる。地域の複数の企業が行うことでコラボが生まれる可能性もある。難しいと考えずにまずはやってみたらどうかと思う。
- ・他の自治体の事例では、東成区が平成23年から「わが町工場見てみ隊」を実施している。港区では「港区WORKS探検団」があり大阪市立大学商学部のゼミ生が小学生を案内するリーダーとして参加している。大正区では「大正・港オープンファクトリー」を実施しており、複数の企業を回るコースになっている。いずれもキーとなる人物がいたことが実現につながった。
- ・昨年度、大阪産業大学・大東商工会議所・大東市で人材育成の協定を結んだ。ものづくり教育道場として3DCADの講座や、大学生による企業評価などを行った。大学としても地域との連携を進めていく必要があると感じている。
- ・大東の印象は地元が大好きだが、PRが上手ではないイメージ。イベント等もあるが、ベクトルが内向きになってしまっている。
- ・行政として公平性を重視しすぎると、とがった施策が実施できない。
- ・中小企業として、切磋琢磨することは大事だが、競争に勝つということでは将来がない。切磋琢磨しながら成長し、全員が生き残るという考え方が大事である。

9. 次回開催について

7月29日（月）15：30～開催予定。